

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177400231		
法人名	沼田町		
事業所名	沼田町認知症高齢者グループホームなごみ		
所在地	雨竜郡沼田町旭町3丁目5番29号		
自己評価作成日	平成26年2月17日	評価結果市町村受理日	平成26年4月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0177400231-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夜間の勤務職員を基準の1名から、利用者の安全・安心等のため2名体制としています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地にある平屋建て1ユニットのグループホームである。同じく沼田町が運営する特別養護老人ホーム、養護老人ホームが敷地内にあり、合同の行事などで交流している。共有空間を居室が取り囲む配置で、一体的で全体を見渡しやすく、南には眺めの良いベランダも設置されている。壁には利用者で作った貼り絵や短歌の作品などが飾られて親しみやすい雰囲気であり、床暖房や加湿器により温度や湿度も調整されている。利用者は自分のペースでゆっくりと過ごし、短歌や編み物、大正琴などの趣味を継続できるような支援も行われている。職員は優しく穏やかに利用者と接し、また、職員同士の関係も良好である。地域交流の面では、関連施設の花火大会や夏祭り、町の夜高あんどん祭りや芸術祭に参加し、音楽や読み聞かせのボランティアの訪問も受けている。町が運営する施設のため、行政との連携・協力の体制が整い、隣接する関連施設とも運営や行事で密接に協力することができている。家族会や家族アンケートにより家族の意見を聞いて運営に反映し、介護計画についても計画的に見直しを行って、家族に説明している。職員も理念や介護計画を意識しながらサービスを提供し、計画に沿った日々の記録を作成している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所やホール、ネームの裏などに理念が貼ってあり意識し実践へと結び付けている。	経営理念の中に「利用者が地域の人と共に安心して暮らせる生活環境を提供します」という文言を入れ、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念として確立している。理念を各所に掲示し、ネームプレートに挟んで共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣施設の行事へ参加したり、町民芸術祭へ作品を出品するなどして地域との交流を深めている。また、毎日の散歩では近所の方と挨拶を交わしたり、近所の方や家族から自宅で取れた野菜などを頂くこともある。	隣接する特別養護老人ホームの花火大会や夏祭りに参加したり、幼稚園児が来る際に訪問して交流している。町の夜高あんどん祭りを見に行ったり、町民芸術祭に利用者の作品を出品している。音楽や読み聞かせのボランティアの訪問も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事に参加したり、デイサービスを開設して地域のニーズにこたえています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1回開催し、年間6回行っている。行事と組み合わせながら行うなどして、利用者の日常を見ていただけるようにしながら意見を頂いている。	運営推進会議は2か月毎に開催され、町の職員、町内会長、利用者家族などの参加を得て、防災や家族アンケート、外部評価を話し合ったり、家族会や認知症サポーター養成講座を同時に行っている。議事録を全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	公立の施設であり町の担当者とはまめに情報交換を行っている。また、社会福祉協議会とも連絡を密にし、情報交換・共有しサービスの向上や関係機関との交流を深めている。	運営推進会議に町職員が参加している。また、事業主体が沼田町であるため、町の担当者と電話でいつでも相談や情報交換ができる。社会福祉協議会とも連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠せず、自由に外へ出られるようにしている。外へ出たいという利用者にはその都度利用者に付き添い対応している。万が一の場合に備えて玄関にはセンサーを置き、行方不明時の捜索マニュアルも作成している。	身体拘束は行われておらず、身体拘束ゼロの手引きを用意し参照できるようにしているが、定期的な勉強会などは行われていない。玄関は夜間のみ施錠しており、日中に入出りがある場合はセンサーで分かるようにしている。	身体拘束の禁止の対象となる11項目の具体的な行為について、内部研修や勉強会で全職員が定期的に確認し、理解を深めることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加し研修の報告を全体会議で行うことで周知している。また、利用者のケアにあたって職員それぞれが意識を持ち、注意しあうことで虐待防止に努めている。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や日常生活自立支援事業の研修に参加した職員からの報告により、全体で理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際の契約や、重要事項説明書についても丁寧な説明を心がけている。時間がたってからでも不明な点があればその都度説明し理解していただけるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会でアンケートを行ったり、面会に来られた際にはその都度現在の様子を報告する等して、意見なども伺うようにしている。家族から寄せられた意見や要望は連絡ノートや全体会議で周知している。利用者の意見は普段の会話の中から、要望や意見を取り入れるようにしている。	運営推進会議に複数の家族が参加するほか、年に1回、家族会を開いて意見を聞くとともにアンケートを実施している。家族からの意見は連絡ノートに記載し、職員間で共有している。また、2~3か月に1度「なごみ通信」を送付し、利用者の様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員全体会議を設け、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。	月1回の全体会議の際に職員は活発に意見交換している。定期的な面談は行っていないが、職員はいつでも管理者や施設長に相談することができる。職員同士も意見を言いやすく提案しやすい関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はほぼ毎日訪れ職員の勤務状況の把握に努めている。職員が働きやすい環境を可能な限り整備しようと努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が満遍なく研修などに参加できるように配慮し、研修で学んだことは全体会議で周知している。新人職員には個人に合わせたペースでの指導に心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で知り合った同業者との交流はあるが、個人的な交流にとどまっている。近隣の施設職員とは行事に参加するなどして交流がある。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面談で情報を聞き、対話から困りごとを汲み取って良好な関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に不安に思っていることや疑問に思っていることを聞き安心していただけるように対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活状況を確認しながら始めている。最初の相談時に本人や家族の思い、今までの状況を確認し何が必要か協議している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として対応している。料理の話をしたり、作り方を聞くなど寄り添って生活できるようにしている。利用者の気持ちを大切にするように心がけている。複数の職員がかかわり対応することでおおむね出来ている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に話をしながら近況報告し情報を共有している。また、家族の支えが一番であることも理解していただけるよう努力している。家族が気軽に来られるような雰囲気作りも大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで続けてきたこと(短歌の会への参加や趣味)を継続できるように支援している。また、古くからの友人が気軽に立ち寄れるような雰囲気も大切にしています。	半分ほどの利用者に対して友人や知人が来訪している。利用者が電話をする際にも支援している。町内の美容院に送迎したり、短歌の会の参加や編み物、大正琴などの趣味を継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見ながら気配り、目配りしレクなどを通じて孤立しないように努めている。小さなトラブルも見逃さないように努めている。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援状況の引継ぎ等を行い、新しい場所にも直ぐになじめるように配慮している。家族と会った際には挨拶をし近況の話をすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から本人の思いを聞き、家族からの情報を参考に本人のペースに合わせて日常生活が送れるように努めている。	半分以上の利用者は言葉で希望や意向を表現でき、難しい方の場合も表情やしぐさから把握している。利用者の情報を記載したフェイスシートを作成しており、今後はファイルに整理して共有し、定期的に更新を行う意向である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話や家族からの情報により把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	色々な活動から興味を示すものを見つけて、出来ることを行っていたい。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス開始時は家族や社協の情報を参考に、暫定的ケアプランを作成しその後1ヶ月程度を目途に意見交換、モニタリング、カンファレンスを行いケアプランへ反映している。家族にもその都度説明している。	介護計画は3か月の期間で見直し作成している。見直しの際は、職員の意見を集約してモニタリング表にまとめ、カンファレンスを行った上で次の計画を作成している。介護記録は計画を参照しながら、目標項目に沿った内容の記録が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って記録をしている。その日の出来事など記録し全職員が確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスの開設などその時々ニーズに応じて対応。外出行事や誕生会など家族同席の要望があれば出来る限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町のスーパーや美容院を利用。ボランティアに来られる方々や隣接の施設利用者とも交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が町内の病院を利用しており、通院支援を行っている。町外の病院に関しては家族対応ではあるが、必要に応じて付き添ったり状況説明を行うなど支援している。	利用者の多くが町内の協力医療機関を受診している。その他の専門医などを受診する場合は原則家族対応としているが事業所で通院支援を行う場合も多い。受診内容はパソコン上の「病院受診」の種別で記録・管理している。	

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないが隣接施設の看護職員と連携している。介護職員は利用者の健康状態の把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する場合病院へは生活状況を伝え、家族とも連絡を速やかに取って治療方針など話し合い早期に退院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師がいいため医療行為が発生しない範囲で可能な限りサービス提供をおこなっています。重度化した場合の対応は入所時に重要事項説明書にて説明している。	利用開始時に重要事項説明書の中の「重度化した場合における対応」について説明し、署名・捺印を得ている。事業所に看護師を配置していないこともあり、医療行為が必要な場合の看取りは難しい旨を説明し納得を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回程度応急手当の訓練を行っているが、受講済みの人とそうでない人がいる。今後はマニュアル化して行きたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回利用者と共に避難訓練を行っている。昼間及び夜間とそれぞれに想定した訓練を行い、運営推進会議と組み合わせて町内会や近隣施設職員の協力をお願いすることもある。また、非常用食料として水とお粥を貯蔵している。今後は天災(地震、水害など)に対応した避難訓練も行って行きたい。	年2回、昼夜を想定した避難訓練が実施されており、消防や地域の協力も得られている。職員の救命訓練も定期的実施され、災害時に必要な備蓄品も用意されている。地震や水害等、火災以外の災害の対応についての確認は十分といえない。	地震や水害等の火災以外の災害に対する対応についても、マニュアルや手順書を整備し、会議等で定期的に確認することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への呼びかけや、トイレへの誘導など本人や他利用者に配慮しながらプライバシーに配慮し、気になることは全体会議にて検討しています。	利用者への対応は職員間で注意し合い、接遇で気になる事があれば全体会議で伝えている。個人記録類は医務室で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思表示しやすいように雰囲気や信頼関係を築いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方は本人の要望を聞き各々のペースや趣味に合わせて過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは本人の意思で選んでいる。おしゃれや化粧なども楽しめるようにできない部分は手伝っている。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや片付けなど出来ることは行っている。時には味見をしていただくなど調理に参加していただいている。また、外出先で食事をしたり、出前を取って食事をする等いつもと違う雰囲気作りも行っている。	献立は職員が立て、管理栄養士のチェックを受けている。畑で採れた野菜をカレーにしたり、外食はお寿司を食べに町外へ出かける事もある。誕生日は本人の好きなメニューを提供している。食材の下拵えや下膳などに利用者が参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事を記録し把握している。また、一人ひとりの嗜好に合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後習慣として歯磨きやうがいを行っています。自力で行っていただいた後仕上げや確認を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	すべての利用者がトイレで排泄しています。紙パンツやパッドを使用している利用者も居ますが、排泄パターンを記録し自立に向けた支援や援助を心がけています。	誘導が必要な利用者は半数であるが全員の排泄チェックを行っている。居室のナースコールも使用し排泄介助に役立てている。夜間帯もトイレでの排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や野菜ジュースで促したり、風船バレーやラジオ体操などここにに応じた運動を取りれています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めて週2回は入浴できるようにしているが、そのときの状態や体調などに合わせて対応している。また、年に数回温泉で入浴するなどの工夫も行っている。	月・木・金曜日の午前と午後の時間帯で週2回入浴している。拒否がある場合は翌日にずらして対応している。湯加減を本人の好みに合わせたり、地元の温泉入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜は穏やかに休める様に、日中趣味活動や軽い運動を促して体調を整えたり、眠れ無い時には話を聞いたり飲み物を促すなどして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ごとにファイルして何時でも見られる様にしている。処方が変わった時には状態を観察、記録している。また投薬箱は、朝・昼・夕と色の違う箱に入れて保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むきや洗濯物の整理、拭き掃除等出来ることは行っている。また、菜園、編み物、短歌サークル等それぞれの趣味が活かせるように対応している。また、お手伝いしていただいた時には「有難うございます」と感謝の言葉を伝える様にしています。		

沼田町認知症高齢者グループホームなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に出掛けている。夏場にはそれぞれの希望に応じて、海、バラ園などの外出レクも行っている。また、少しの時間ならば近くの公園へ桜や紅葉見学にも出掛けている。	散歩は周辺をコースにしており、冬場も出かける利用者がいる。買い物は何人かずつに分かれ車で農協に行っている。年間計画を立て、行燈祭りや温泉、ひまわりの里、さくらんぼ狩り、町民芸術祭などへ外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大部分は事務所で管理しているが、本人の希望で毎月お小遣いを渡し、好みの菓子を買ったりお孫さんのお年玉に使う等して使用する事も出来ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい等要望があれば事務所の電話を使用して対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には利用者の作品を飾ったり、熱帯魚を置く等して家庭的な雰囲気作りをしている。また、ホールには大きな吹き抜けがあり自然光も取り入れている。床暖房が入っているため常時暖かさを感じられるようになっている。	居間兼食堂のフロアは風除型のベランダ付きで花壇や菜園が見える明るい空間である。ソファコーナーがあり遊び道具が入ったサイドボードもある。利用者の作品を掲示したり熱帯魚を飼育している。トイレは男性立ち便器、車椅子対応型も設置している。床暖房で冬場も居心地よく過ごせる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物上利用者の共用空間がワンフロアの為、居室以外は1人になれる空間が無く落ち着かないことも多いが、家具の配置などに配慮し工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具等については、自宅で使用していたものを持ちこんで頂いている。また、壁には写真を飾ったり好きな絵を飾るなどして落ち着いた空間になる様に工夫している。	3畳分の畳とフローリングで押入れ付き9畳の広々とした居室である。家具類やテレビ、趣味の道具などが持ち込まれており、個性に合わせた部屋作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の安全な配置と介護器具の設置など、利用者の身体状況に合わせて全体会議等で話しあい検討している。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束の禁止対象となる11項目の具体的な行為について、内部研修や勉強会で全職員が定期的に確認し、理解を深めることを期待したい。	身体拘束の禁止対象となる11項目について全職員が理解する。	全体会議などを通じて、身体拘束についての勉強会を実施し、身体拘束の禁止対象となる11項目についての理解を全職員で深められるように取り組みます。	2～3ヶ月
2	35	地震や水害等の火災以外の災害に対する対応についても、マニュアルや手順書を整備し、会議等で定期的に確認することを期待したい。	火災以外の災害に対する対応についてのマニュアルを作成し、職員全体で共有する。	消防などの協力も得て、地震等の災害に対する対応の勉強会を開いたり、対応についてのマニュアル作りを行う。	3～4ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。